

# しまねの社会教育だより

島根県立東部社会教育研修センター  
島根県立西部社会教育研修センター  
vol. 20



photo ヤング古志原「茶臼山登山」(古志原公民館事業)

**特集**

## しまねの社会教育がめざすもの

—平成27年度島根県社会教育行政の事業—

2015.  
7月号

- contents
- 学習効果に関するアンケートから
  - 学びをカタチに!! (NPO法人 出雲スポーツ振興21)
  - わがまちの社会教育の実践紹介 (大田市・安来市)
  - 社会教育施設紹介 (島根県立宍道湖自然館 ゴビウス)

# しまねの社会教育がめざす

島根県では、人口減少問題に対応し活力ある地域をつくるという大きな課題があります。この課題解決に向けた人材育成が不可欠であり、「人づくり」を進める社会教育は、ますます重要となっています。

本県では、平成26年7月に「第2期しまね教育ビジョン21」を策定しました。同ビジョンでは、島根の教育目標を達成するための基盤として「社会教育の展開」を位置づけ、社会教育の役割を「住民同士による実践活動を通じて、地域の活性化や新たな相互扶助の仕組み・コミュニティを構築し、地域力を高めていくこと」としています。

このことは、人口減少・少子高齢化などへの対応や持続的・発展的な地域づくりを目指す「地方創生」にもつながります。また、今だからこそ、生活課題や地域課題について住民自身が理解を深め、その解決のために当事者意識をもって主体的に実践する人づくりを行う社会教育の役割が改めて重要となってきます。

このような動きを踏まえて、島根県教育庁社会教育課では以下のような取組を実施します。

## 社会教育行政の今後の方向性 【第2期しまね教育ビジョン21】より

- 地域の公民館等を拠点に、住民が地域の抱える課題に対する理解を深め、解決に向けた実践活動を推進し、地域力を高める取組を推進します。
- 社会教育施設等において、住民の学びや実践活動を支援する指導者の養成を推進します。
- 子どもたちの人間力、社会力の育成に、地域の力を結集して計画的に取り組めます。
- 地域全体で子どもを育むため、学校・家庭・地域の連携・協働の取組を一層推進します。



### 県の社会教育行政の主要事業

- 結集!しまねの子育て協働プロジェクト  
ふるさと教育・学校支援・放課後支援  
・家庭教育支援・土曜日の教育支援
- 実証!「地域力」醸成プログラム
- 子ども読書活動の推進
- しまねのふるまい推進プロジェクト



### 主要事業を進める際の 3つの重点



地域における  
「ふるさと教育」  
の推進

家庭教育支援  
の充実

若者の  
地域参画促進

### 1. 地域における「ふるさと教育」の推進

地域において、全ての住民がふるさとの自然・歴史・文化・伝統などを学び、ふるさとに対する愛着や誇りを高めるとともに、次代を担う子どもたちに伝えることができるように、学校・家庭・地域が連携し公民館等を中心としたふるさと教育や学校の教育活動を支援する地域の体制整備を推進します。

#### 継続 公民館ふるさと教育推進モデル事業

学校と連携して公民館等でおこなう「ふるさと教育」や地域住民を対象とした「ふるさと」を学ぶ講座等を5つのモデル地区において実施します。

中学校区の育てたい子ども像を共有して公民館等でふるさと教育事業を実施し、ふるさとを愛し誇りをもつ子どもの育成、ふるさとに誇りをもち次世代に伝え守っていく大人の増加をねらいます。

### 2. 家庭教育支援の充実

#### 新規 企業等と連携した「職場で親学!!」モデル事業

企業等と連携して、社員研修に「親学ファシリテーター」を派遣し、親の役割や子どもへの関わり方等についての気づきを促すことにより、学校やPTA活動、公民館等で行われる家庭教育に関する学習活動に参加しにくい「働く親向けの学びの機会」を提供します。



#### 新規 親子と地域をつなぐ PTCA 活動活性化事業

親世代が中心となって多世代をつなぎ、地域・学校・家庭が抱える課題の解決に向けた地域活動の取組を行うことをとおして、地域全体で家庭教育を支援する気運を醸成します。

モデル事業として地域活動を行おうとする親世代が中心となって構成される団体に事業委託し、取組のノウハウ等を普及・啓発します。

新たな枠組みのPTCA活動により、従来のPTA等の活動の活性化をねらいます。

PTCAとは・・・P(Parent 親) T(Teacher 先生) C(Community 地域) A(Association 会)の頭文字をとったもの

### 3. 若者の地域参画促進

#### 新規 多世代がつながる地域づくりモデル事業

多世代のつながりや学びの場を意図的に設定し、多世代が協働することで地域を担う次世代の育成や世代間交流を促進し、「地域力」醸成を促します。

#### 継続 大学と連携した企画・提案事業

大学生が公民館活動・地域活動等の実態を調査し、地域の若者を巻き込んだ公民館事業を企画・提案します。島根県立大学の学生が、モデル公民館において、地域の若者との協働による事業を企画・実施します。これらの取組を広く周知し、公民館等において若者の地域参画を促すことを推進します。



#### 継続 公民館等職員による企画・提案事業

公民館等職員が意見交換・議論しながら、地域の若者の参画を促す公民館事業を企画・実施します。モデル事業の取組を広く周知すると公民館を核とした若者を対象とした学習活動・実践活動の充実を推進します。

# 学習効果に関するアンケート

## 質問 あなたの地域の課題・問題は何ですか

少子・高齢化の進行	84%
地域コミュニティの活性化	63%
地域リーダーの養成	63%
若者の定住	57%
家庭の教育力の低下	41%

「少子・高齢化の進行」がトップです。ほぼすべての所属・役職で1番の項目になっています。

「地域コミュニティの活性化」「地域リーダーの養成」をあわせた上位の3項目を、回答されたすべての立場の方が課題・問題としてあげています。

今後、このような課題・問題の解決につながる人材養成研修を企画していきます。

## 質問 今後、受けてみたい研修は何ですか

地域力の向上(地域づくり・まちづくり)	53%
社会教育と地域づくり・まちづくりの関係	45%
地域人材の養成・確保について	45%
コーディネート力(連絡・調整)を磨くこと	38%
学校・家庭・地域の連携促進に関わること	37%

「地域づくり」「学校、家庭、地域の連携」「人材育成」に関するものが、上位にあがっています。また、社会教育関係者に“求められる”資質能力に関するものもありました。

今後、こうしたニーズに応じた研修を企画していきます。

## 自由記述 受講した感想や要望等

いくつか研修を受け、ファシリテートの役割やアイスブレイクを学んでいたおかげで、ワークショップやセミナーを主催した際、とてもスムーズに運営することができています。

いろいろな地域の方、いろいろな立場の方、いろいろな年代の方と受講でき、とても有意義でした。

立場の違う方がたくさんいて、なかなか話があいませんでした。

研修後のアンケートで、研修スタッフから返事や意見がほしい場合があります。回答していただけるよう記名・連絡先を書く欄を作ってほしいです。

## お答えします!

主催研修を、対象者別研修とし、それぞれの立場の方の専門性を高める研修の実施に努めています。

今年度のアンケートの裏面に、研修や講座に関する質問や意見を書く欄を設けました。記入された方には、回答させていただきます。

etc..

## 「社会教育にかかわる人材養成研修」の学習効果に関する調査

平成24～25年度県立東部・西部社会教育研修センター主催研修の受講者を対象に調査を実施しました。市町村社会教育担当職員、公民館等職員、学校支援地域本部コーディネーター、放課後子どもプラン関係者など22の所属・役職350名の方から、回答をいただきました。

「地域の課題・問題」「今後受けた研修」「研修の形態で効果の高かったもの」「研修内容で自分のためになったこと」「感想・要望等」について調査しました。

### 質問

## 研修の形態で効果の高かったものは何ですか

参加型の演習(グループワーク)	86%
他市町村の方との情報交換	47%
社会教育研修センター社会教育主事の講義・説明	43%
先進地事例の発表	42%
大学の先生の講義	31%

86%の方が「参加型の演習(グループワーク)」をあげています。次いで多かったのは「他市町村の方との情報交換」があがっています。

これら2つは、学習効果を高めるため、広域的な交流をねらうために、社会教育研修センターの研修で特に大切にしていることです。

### 質問

## 研修内容で自分のためになったこと 役に立ったことは何ですか

公民館等の役割と今後の方向性についての学習	43%
コーディネーターの役割とコーディネート技法についての学習	38%
アイスブレイクについての学習	37%
社会教育の基礎的事項についての学習	34%
コミュニケーションの意義や技法についての学習	28%

社会教育関係者の役割について理解を深める内容や、技法のスキルアップに関する内容をあげる方が多かったです。

今後も、対象者ごとに必要で具体的かつ有益な内容の研修を提供していきます。

## 「主催研修」「市町村支援」の活用を

平成26年度から「主催研修」は対象者の専門性を高め、それぞれの立場に求められている内容を提供するため「対象者別研修」を実施しています。今年度は、社会教育関係者のニーズに対応するため、「全体研修」を新たに設け、新規研修として「しまねの社会教育基礎講座」を実施しています。

また、社会教育関係者に求められる資質・能力としてあげられる「コーディネート力」「ファシリテート力」「プレゼンテーション力」「コミュニケーション力」「企画・立案力」などのスキルアップをねらった市町村主催の研修を「市町村支援」としてお手伝いしています。

# 学びをカタチに!!

社会教育研修センターの研修で学んだことを活かして、地域や現場で“地域力の醸成”につながる実践に取り組んでいる方を紹介します。

## ■まちづくり・ひとづくり・ネットワークづくり

NPO法人 出雲スポーツ振興21

高橋 昌博 さん

高橋さんは、出雲ドームや県立浜山公園を管理・運営しているNPO法人 出雲スポーツ振興21で、研修の学びを活かした事業に取り組まれています。出雲スポーツ振興21は、福祉、教育、文化、環境、産業等、多様な分野と連携を深め、スポーツをとおり、地域住民に密着した事業を行っています。



## ■“社会教育主事講習【B】”を受講して

高橋さんは、東部社会教育研修センターで平成25年度「社会教育主事講習【B】(以下B講習)」を受講し、社会教育主事の資格を取得されました。様々な分野のヒト・モノ・コトと連携した事業を計画・実施していくにあたって、B講習で学んだことが大いに役に立っていると、次のように話してくださいました。

「社会教育演習」は、実際に自分が担当している事業やこれから取りかかるべき事業の計画を整理し、改めて事業全体を見直すことに役立っています。事業自体の見直しができるだけでなく、自分自身の考えや意識を客観的に見直す作業を冷静にできるようになりました。そのため、たくさんの人と協議を重ねても、事業のねらいやそれともなう評価の視点がブレなくなり、いつでもねらいに立ち返って全体を見直すことができるようになったと感じます。

また、同時期にB講習を受講したメンバーは、今でも仲間であり、お互いの活躍を喜びあひながら交流しています。講習では“社会教育の心と人のつながり”をもらいました。

「わたしひとりのチカラではないのです。当方職員含め、周りのたくさんの方々のチカラなんです。」とくり返し笑顔で話されていたのが印象的でした。

## ■健康をキーワードに連携!! 協働!!

4月に開催された「出雲ドームdeスポーツ&健康フェスティバル2015」から、研修の学びについて話を聴きました。

今年で5回目を迎えた“出雲ドームフェスティバル”では、さわやかな晴天のもと、5,800人がイベントを楽しみました。

当日は、出雲市スポーツ推進委員協議会のニュースポーツPRコーナーや出雲市の健康増進課による血管年齢測定や骨密度測定など、スポーツや健康に関する様々な分野の団体・グループによる自分のからだや健康を見直すきっかけとなるようなブースが設けられました。

子ども連れの若いご家族をはじめ、老若男女のたくさんの方が来場され、あちこちのブースで楽しそうな笑い声が響き渡りました。

その様子を眺めながら、嬉しそうに「次はどうかPDCAサイクルのC(評価)をしっかり行いA(改善)に取り組まないといけませんね。」と話され、さらに次へのステップを考えておられました。



**POINT**

社会教育の推進役となる“社会教育主事”の資格を得るための「社会教育主事講習」[B]を東部・西部社会教育研修センターで受講することができます。毎年多くの社会教育関係者の方々が受講しています。

# 社会教育の実践紹介



地域が主体となる土曜日の教育支援

「大田一中サタデースクール」～大田一中校区学校支援地域本部事業の取組～

大田一中校区専任コーディネーター 田中 伸哉

「自分の責任で学習する自学力、地域住民の思いにふれる経験、地域の魅力や良さにもふれる体験、人の役に立ち必要とされる体験などを通して、子ども達が将来の自分の生き方、地域や大田市づくりを考えるきっかけにしたい。」という思いから、地域が主体となる「大田一中サタデースクール」に2年前から取り組んでいます。一中校区のコーディネーター6名を中心に協議を重ねながら、色々な方のご協力を得て準備を進め、当初は自学の見守りだけであったサタデースクールへの地域の皆さんの関わりも、様々なところに広がっています。



この取組をとおり、子どもたちには地域に貢献したいという思いが、また地域には一体となって子どもたちを育てていこうという機運が高まってきています。

今後は地元企業をはじめ様々な団体と連携した取組も期待されます。  
(大田市教育委員会派遣社会教育主事)

昨年度は竹腰大田市長、西尾大田市立病院長より、自身の少年時代の経験や地域への思いなどをお話していただきました。

また、サタデースクール地域学習アドバイザーによる「楽器教室」や「茶道体験」なども開催し、参加生徒も大変興味をもって取り組んでいました。

今年度はさらに何名かのみなさんに、アドバイザーとして協力いただくほか、保護者代表も参画する「大田一中サタデースクール運営委員会」も定期的に開催する予定です。この取組をとおり、生徒達と地域の大人との交流が深まり、みんなが地域における自分の役割や存在価値などを確認できるよいきっかけになるのではと期待しています。



「地域の先生ありがとう」

「エッ、本当に薪でご飯やお風呂を焚いていたのですか。」これは小学校の昔の生活・遊びについての支援員さんが関わっている授業の一コマです。

当センターでは、幼稚園、小学校からの様々な授業支援の要請に対し、支援を専門で行う「相互クラブ」の中から、延べ400人余のボランティアを学校へ派遣する事業を行っています。

授業前、担任と事前打合せを行い、授業終了後、その授業の反省会を行い、その内容を文書化し次回のより良い支援へ繋げるため学校へ報告しています。



島田地区の取組は、交流センターが核となり、地域の力が学校に注がれることを通して、大人の学びを生み、その結果として地域の活性化やまちづくり、人づくりまで意識されたものになっています。交流センターも島田地区の皆さんも活気にあふれています!!

(安来市教育委員会 派遣社会教育主事)

島田交流センター館長 廣江 奈智雄



年度末には、6年生全員の企画により支援員を学校へ招待し「感謝の集い」が開催され共に交流を図っています。

また、子どもの心理や接し方などについて支援員自らが学び、資質向上に努めるとともに、これらの活動に対し文部科学省から表彰を受け、これが一層の励みとなり日々生きがいをもって活躍いただいております。

しまねの川と宍道湖・中海の**体験型水族館**

“もっと知ろう ふるさとの自然 親しもう 水辺の生きもの”

島根の水辺には宍道湖や中海、自然豊かな多くの河川があります。そこには、たくさんのさまざまな生き物たちが生息しています。宍道湖自然館「ゴビウス」は、島根の自然の魅力を発見し再認識する場を提供しています。



自然に親しむ

もっと知りたい! 学びたい!  
自然保護や環境教育等の  
地域の拠点

ゴビウスは、学校の校外学習や遠足、子ども会、地域で活動している市民団体等に利用されています。

また、それぞれの団体の学習テーマに応じて専門のスタッフが解説を行うなど、みなさんの学習機会のお手伝いをします。



遊ぶように学ぶ

学習プログラムを  
準備しています(要:事前予約)

水辺の生き物と親しむための学習プログラムを準備しています。ワークシートのクイズに答えながら、館内の展示や水槽をじっくり観察したり、普段は見ることができない水族館の裏側を見学したり、水槽の仕組みや魚たちのえさについて知ることができる裏方探検ツアー(小学生以上)も行っています。

また、生き物や自然について紹介している、ゴビウスのオリジナルの映像を視聴することもできます。

すべてのプログラムは事前予約が必要です。お早目に(約1ヶ月前)ご相談、お問い合わせ下さい。いずれのプログラムも入館料のみでご利用いただけます。

募集 ゴビウスサポーター

ゴビウスでは、お客様が身近な生き物にふれて楽しむことを応援するための制度を導入しています。サポーターとして活動いただける方を募集しています。詳しくはゴビウスサポーター募集係まで。

島根県立 宍道湖自然館ゴビウス

出雲市園町1659-5  
TEL0853-63-7100 FAX0853-63-7101  
開館時間/9:30~17:00(最終入館16:30)  
休館日/火曜日(※祝日の場合 翌平日休)

編集スタッフから

「お母さん、僕ミニ先生になったよ!!」と息子が嬉しそうに話していたことをふと思い出した。「ミニ先生」とは音読のミニ先生。どうやら担任の先生に合格をもらってミニ先生になって友達の音読に“アドバイス”をするらしい。鍵盤ハーモニカのミニ先生・かけ算九九のミニ先生・リコーダーのミニ先生・水泳のミニ先生と学校生活の中のいろいろな場面にミニ先生が登場するらしい。自分や身近な友達がミニ先生になり、誰もが自分の得意なことで“ミニ先生”になれる。そして、いつの間にか学びの場面が教室中に広がり、気がつくともみんなができるようになる。この“ミニ先生”のおかげで、校内の音楽会で鍵盤ハーモニカを臆することなく演奏して見せてくれたことを懐かしく思い出す。

誰もが“ミニ先生”になってお互い学びあい、全体のレベルが上がっていく。こんな中で育ててもらったおかげか、わが子の周りには“他者を認め協力していくことができる子ども”が多いように感じる。誰もが誰かのミニ先生!!

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F  
Tel.(0853)67-9060 Fax.(0853)69-1380  
URL: [http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu\\_shakaikyoku/](http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoku/)  
E-mail: [tobu\\_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp](mailto:tobu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp)

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみーる3F  
Tel.(0855)24-9344 Fax.(0855)24-9345  
URL: [http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu\\_shakaikyoku/](http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoku/)  
E-mail: [seibu\\_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp](mailto:seibu_shakaikyoku@pref.shimane.lg.jp)

第21号は  
10月末  
発行予定